

幼なじみの友人は国際結婚をして夫と三人の子供たちとアメリカで暮らしている。

そして、年に一度、子供たちの学校が休みになる夏のはじまりの頃、日本に里帰りする。

その時、いつも私達は会って二人だけの同窓会を開く。

昔に戻って普段のメールでは話きれないことなどを何時間も話し込み、笑いあって、時がたつのを忘れてしま
う。

いつもは心おきなく何でも話せる様にと、子供たちを連れてくることはないのだが、(子供はけっこう親たちの話をよく聞いているものなので)七十才を超える彼女の母が元気のいい十七才の孫娘を扱いかねているからと、今年
は十七才の末の女の子を同伴してきた。

私がお子に前回会ったのは十年前前で、その活動的で積極性のある様子に日本のおっとりとした子供達をみな
れた私にとっては大そうびっくりした覚えがある。

十七才になってもその元気さはかわっていなかった。

蒸し暑い気候の中、小雨が降ろうが、気にする風もなく興味のおもむくままに行動する。

日本で生まれた彼女だが赤ちゃんの頃からアメリカで育ち、英語が母国語である。

日本語に関しては通常の会話は不自由なく使えるが読み書き、特に漢字が苦手、敬語も難しく、と明るく笑っ
た。

日本は食べ物は何でもおいしくて、うれしそうな母子と食事をしたあと、買物をしたいという彼女の希望で、
若い女の子の喜びそうなお店が立ちならぶショッピングセンターに行った。

心惹かれるお店を見つけたのか、「ムダ使いはしないのよ。」という母の言葉を背に、元気に飛び出して行った。

私達二人は向かいのティールームでお茶を飲みながら、あれやこれやと一年分の話をしはじめた。

ほどなくして買物袋を下げた十七才が戻ってきた。

「何を買ったの？」と尋ねる私達の前に彼女は水玉柄のミニスカートと猫の形をしたユニークな指輪をひろげて見
せてくれた。

いずれもよく日に焼けて健康的な十七才の女の子によく似合うかわいい買物だった。

「あら、かわいいわね。素適ね。」と私がほめると彼女はうれしそうに「アメリカに戻って〇〇(彼女の親友の女の
子)に見せたらきつと、お餅を焼いちゃうわ。」と言った。

私と友人は思わず顔を見合わせて、そして一瞬の間のあと大笑いした。

彼女の母である友人が「それは“お餅を焼く”、というのではなくて“焼餅を焼く”って言うのよ。」と言うと彼女は「ふーん。」と言ってそのフレーズを小さな声で二回繰り返した。

「だって、なんだか面白い言い方だから、使ってみたかったの。」とクルクルとよく動く瞳を輝かせて言った。

「日本語はとつても難しいけど、不思議で奥が深い感じ。」

「へえー。やっぱり難しい？」と私が聞くと

「うん。漢字は本当に難しいし、敬語も。」

でもと、祖母がよく口にするということわざ、“馬の耳に念仏”“短気は損気”などを思い出しつつ、つかえながら口にして、「これなんかも面白くて好き。」と言った。

「あと“つるつる”とか“わくわく”とかああい言葉もとても感じがでていて面白い。英語はど“でも通じるし、とても便利だけど日本語も好き。英語はすっかりになって日本語がなくなっちゃうのは悲しい。」とかき氷を口に運びつつ言った。

もう少しお店を見てみたいからと再び出てゆく彼女を私たちは見送った。

私はさっきの彼女の言葉を考えていた。

確かに日本語はアメリカ英語などに比べると、合理的に意味を伝え合うための記号の様な役割を超えて言葉に情感が漂っている。それを共有し、意味を理解する以外に“感じ”を伝え合うことができる豊かさのある言葉だ。

十七才の彼女の中に半分流れている日本人の血がそれを感じとり、面白いと言わせるのだろうか。

大学で国文学を専攻していた彼女の母である友人が言った。

「短歌や百人一首などの意味を子供たちに説明すれば状況は理解できても、母国語ではないのでその言葉の持っている美しさや深い意味が自然と胸にしみ入る様に伝わるなんてことはなかなか難しく。それが残念で。」

情感あふれる日本語を伝えきれない残念さと、日本語で感じとるものを共有できない残念さが彼女の言葉から感じられた。

その時、私は思い出していた。

昔、母が好きだと言っていた百人一首の歌を。

“瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末はあはむとぞ思ふ”

川の瀬が速いので岩にせきとめられた滝川の水が分かれても末にはひとつになるように今のあなたと別れても逢うことができなくてもゆくゆくは必ず逢おうと思ふ。

この歌を教えてもらい、感動した時のことを思い出していた。

歌に感動して、母と同じ気持ちを共有したことに小さな喜びを感じていた。

きっと、あの元気な十七才もこれからもっと日本語を学んでゆくことだろう。

母子で日本語の豊かな情感を共有し合える日がくることを心の中で願いながら、夕暮れの駅で無邪気に手を振る彼女たちと別れた。